

平成26年度 清瀬市立 学校 第1回学校関係者評価表					
学校教育目標		健康(よりたくましく 心身をきたえる) 愛情(より豊かな 心をつちかう) 学力(より深く 自ら学ぶ) 勤労(よりよくはたらき 責任をはたす)			
目指す学校像(ビジョン)					
【目指す学校像】		1. 確かな学力を身につける(指導法の工夫により基礎・基本的な知識や技術を確実に身に付けさせる) 2. 自己実現に向けて努力する(キャリア教育を通して将来について考え、社会に出て通用する生徒を育てる) 3. 豊かな心や健やかな体を育成する。(生命尊重の教育を実践し、全教育活動を通じて心身を鍛える)			
【目指す児童・生徒像】		1. 豊かな情操を育む生徒 2. 自ら考え判断し行動する生徒 3. 社会性のある生徒 4. 心身ともに健康な			
【目指す教師像】		1. 共に力を出し合う教師 2. 課題を発見し、改善に繋げる教師 3. 自己研鑽に励み自らを高める教師			
前年度までの学校経営上の成果と課題					
1. 教職員の異動が多いため、組織を再構築し、課題解決へ組織で動く体制を整える。また、職層に応じた役割を明確にする。 2. 基本的な生活習慣の確立が長年の課題となっている。生徒理解や家庭地域との連携を密にし、根気強く指導にあたり、自ら規律遵守ができる生徒を育成する。					
	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第1回学校関係者評価
		努力目標	成果目標		
確かな学力の向上	校内研修を通して特別支援教育や授業研究を行い、授業規律の確立と授業力を高める。	3	4	年間指導計画に沿って、講師招聘による研修会や分科会を実施し、特別支援教育についての研修を深めることができた。授業研究は、全教員が年3回以上実施できたが、互いに見合う時間の確保のために、授業研究実施日を数回に分けた。	他教科であっても授業を見る・見せて学ぶ経験が授業力向上へ繋がる。年齢層に応じた研修の工夫を加えることにより、若手と同時にベテラン教員の育成に繋がる。特別支援教育も授業研究も研修で終わるのではなく、生徒への指導に直接反映することが大事である。不易と流行のように改善しながら継続していく。
	漢字検定、数学検定、英語検定などを定期的に実施し、能力の伸長と学習意欲を向上させる。	3		前期は、漢字検定、数学検定、英語検定を定期的に実施した。受検希望者が昨年度より増えたことは、学習意欲向上として評価されるが、合格率向上には、授業や補習を中心として、学校全体で取り組んでいく。	各検定試験は、生徒の自主的な学習に繋がる。小学校から、検定試験に挑戦する姿勢を育成して行く。また、進路を決める際に、検定試験結果が大きな役割をすることがある。中学入学からではなく、将来を見据えさせるためにも検定試験への挑戦を意識付けが必要である。
豊かな心の育成	1年生・2年生で職場体験(3日間)の実施や外部人材を活用してのキャリア教育を実施する。	3	4	2学年は、7月に職場体験を実施し、体験後、学校生活における生活面での変容が見られた。1学年は、経済同友会、青年会議所など、外部人材を活用し、来年1月の職場体験に向けて準備を行っている。	1学年、2学年と2年間での職場体験は、望ましい職業観や勤労観を育成する。それが、学校生活での生徒の変容に繋がることは確信できる。また、外部人材を活用しての出前授業は、生徒への内部的動機付け、外部的動機付けの両面で生徒の成長や意識付けができていく。
	年3回のアンケートの実施、SCによる面接や定期的に相談週間を設け、実態を適切に把握し、問題の未然防止に繋げる。	4	4	1学期にアンケートを実施し、それに基づいて面談も行った。1年生対象にSCによる全員面接に加え、日々の「あいさつ十一言運動」を行うことで、生徒の実態の適切な把握と問題の未然防止に繋げている。今後も継続していく。	アンケートの意義を生徒に理解させることが大切である。学校独自のいじめ防止基本方針を作成していることは、いじめ防止に一歩進んだ形であるが、実際の活用が見える形で現れるとよい。いじめ防止方針を家庭へも配布し、啓発していくことも防止対策の一つである。
健やかな体の育成	部活動では、技術向上に繋がる外部指導員の活用をする。部活動、地域クラブへの参加により運動習慣と体力向上を図る。	3	4	男子バスケットボール、女子バスケットボールでは、技術向上を目的として外部指導員を活用している。その成果は、試合での生徒の動きや試合成績に顕著に表れている。今後も継続して外部指導員を活用していく。	外部指導員活用は、技術向上や部活動の活性化に確実に繋がっていることが分かる。予算の関係もあるが、色々な部活動で外部指導員の活用が望ましい。
	個に応じたTTの授業、部活動などで持久走の自主練習を取り入れ、100%のマラソン大会参加率を目指す。	3		保健体育でのチームティーチングを生かし、個に応じた指導を行っている。授業や部活動での持久走が定着している。今後は、自己記録更新を目指してマラソン大会へ臨ませる。	マラソン大会の練習だけ見ても、年々、生徒のマラソンに対する意識や持久力の向上が見られる。継続して行っていく中で、生徒の意識が良い方向へ向かっている。
本校の特色①	全教員が年間2回以上の研究授業を行う。	4	4	見合う時間を確保するために、研究授業の実施日・時間を複数にした。その結果、全教員が3回以上の研究授業を行っている。	授業研究は、教員の指導力向上だけでなく、生徒の学力向上へ繋がりが、学校全体の落ち着きに密接に関係していく。この取組は、教職員へ最終のねらいを持たせた上で、継続していく。
	教科、道徳、行事のねらいに応じた外部人材を活用し、目標達成や生徒の変容に繋げる。	4	4	道徳では、弁護士会によるいじめ防止の授業、命の大切さを学ぶ教室では、全校生徒対象に講師を招聘し講演会を行った。「生命尊重」、「自己有用感」の高まりが、日々の生徒の言動から感じられつつある。	道徳の教科化に向けての授業でなく、日々の生徒の実態に応じた道徳授業に加え、外部人材活用には、教育的効果がある。今後も継続して行い、生徒への気付きの機会となればよい。
本校の特色②	全校規模でクリーン運動、あいさつ運動、リサイクル運動を行う。	3	4	生徒会が中心となってクリーン運動、あいさつ運動、リサイクル運動を行っている。この活動は、生徒へ環境問題について理解を深める機会ともなっている。 マンネリ化しないように工夫しながら継続していく。	中学生になると全体を見、考えることができる。生徒が主体となって活動する場として生徒会活動があるが、非常に活発である。それが、様々な場面で見られ、生徒会活動への高い参加率や役員立候補者が多いことに見られる。
	年間2回の街頭募金を東北の義援金として実施する 東日本大震災の勉強を実施して募金活動により多くの生徒の参加を促す。	3		1回目は、大規模改修のために2学期の始業式後に実施した。全校で約4割近い生徒が参加し、自然災害の恐ろしさや安全確保について知識が高まりつつある。	ボランティア精神の育成や社会貢献へのよい機会となっている。二中の生徒会活動の特色として今後も継続する。